

広がる選択肢！

577nmイエロー

パターンスキャンレーザーの適応

第35回日本眼科手術学会総会
モーニングセミナー 3

2012年1月28日(土) 8:00~8:50
第8会場(名古屋国際会議場 2号館3F 会議室234)

座長 日下 俊次 先生 近畿大学医学部堺病院 眼科 教授

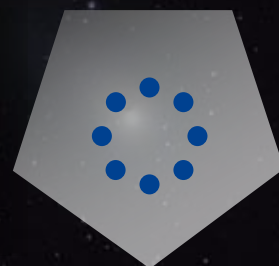
これまでの網膜光凝固法の常識はレーザースポットを一つずつ、照射時間 0.1~0.2 秒程度で行うものでした。これに対して Blumenkranz 氏ら (Retina 2007) は複数のレーザースポットを照射時間 50ms 以下で瞬時に行うことができる pattern scan laser とされるレーザー照射法を開発しました。この方法では従来の方法よりもはるかに早くレーザー照射が施行でき、照射時間が短いため組織障害が網膜外層に限局し、網膜内層や脈絡膜への障害が小さく患者の疼痛が少ない、といったメリットがあります。ただ、彼らが開発した装置は半波長 YAG レーザー (532nm) であり、黄斑色素に吸収されにくく、散乱も少ないイエロー (577 nm) レーザー光の臨床応用が待たれていました。

今回のセミナーでは 577nm イエローパターンスキャンレーザーの臨床応用、今後の展開の可能性をテーマに企画しました。まず、この分野の第一人者である東京大学 加藤聡先生にパターンスキャンレーザーの適応と限界についてお話し頂き、私がお話頂き、私が本レーザーの使用経験について報告したいと思います。今後、大きな変革が予想されるこの分野での方向性を探ることができれば幸いです。奮ってご参集ください。

Square



Circle



Macular Grid



Triple Arc



講演 1



パターンスキャンレーザーの特徴と限界

加藤 聡 先生

東京大学大学院 眼科・視覚矯正科 准教授

講演 2



577nmイエローパターンスキャンレーザーの使用経験

日下 俊次 先生

近畿大学医学部堺病院 眼科 教授

第35回日本眼科手術学会総会

共催



興和株式会社